平成 30 年 6 月 29 日(金)
練馬区立開進第四小学校
校　長　河 﨑　晃 二

アオダイショウ

校長　河　﨑　晃　二

梅雨とは思えないくらい暑い日が続きますが、子供たちは元気に学校生活を送っています。４月の始業式からはや３か月が経ち、１学期も後３週間程となりました。ご家庭でのご協力もあり、子供たちの行動や振る舞いに大きく成長したところが数多く見られ、大変うれしく思っているところです。

＊

さて、先日校門近くにある飼育小屋あたりのフェンスに、長さ１ｍ、太さ３～４ｃｍ程のアオダイショウがいました。蛇というと、一瞬「ぎょっ」としますが、緑がかったとても美しい色をしていました。動物園等で飼育された蛇を見ることはありましたが、日常の生活の中で、飼育されていない野生の蛇を間近で見るのは、初めてでした。アオダイショウは、毒もなくおとなしい蛇ですが、１ｍもある蛇が道路から見える位置にいるのは気持ちいいものではありません。子供たちに危害を加えることもあるかもしれないので、処分することも考えましたが、人間が何もしなれば噛みつくこともしません。目立たない場所に移動することにしました。そして、朝会で子供たちに「もし見かけたら、騒がず、触らずにそっと見守ること」それから、「家の守り神であったいわれ」について話をしました。

多くの人たちが農民として暮らしていた頃、農閑期の食料として秋に収穫した野菜や米を貯蔵していました。それらの野菜や米に悪さをするのはいつも決まってネズミで、夜な夜なカリカリカリと米やカボチャ、イモ、大根などをかじって辺りを散らかします。

しかし、ネズミ等の小動物をえさとするアオダイショウが家の屋根裏などに住み着いていると、アオダイショウの独特の臭気でネズミが警戒して家に近寄らなくなり、食料を荒らされずに済んでいました。つまりアオダイショウは毒もなく、食料をネズミから守ってくれることから繁栄の証、家の守り神と言われるようになったのです。だから、誤ってアオダイショウを殺してしまったり傷を負わせると、病気になったり怪我をしたりといった、祟りに合うということもよく言われていました。

アオダイショウのアルビノ（色素がないもの）は「神の遣い」として信仰の対象にされることもあります。山口県岩国市周辺にはアルビノが多く存在していて、これらの蛇はみな信仰の対象として駆除されずに残されました。そして、１９２４年以降は、国の天然記念物に指定され、岩国のシロヘビとして有名です。そして、飼育・繁殖のための施設もあります。

人間の都合ですみかをなくしてしまった動物は数多くいることでしょう。練馬区は区部の中でも比較的自然が多く残っています。むやみに排除するのでなく、共存できる環境を整えたいものです。

その後、アオダイショウを見かけたという情報は入っておりません。きっとどこかに潜んでいるか、えさを求めて他の場所に移ったのかもしれません。

＊

梅雨が明ければ、いよいよ子供たちが楽しみにしている夏休みがやってきます。その前の７月は、１学期の振り返りの時期となります。しっかりと学習や生活のまとめ、２学期につなげていきます。